

NKE

UNILINE 取扱説明書

F3SV64A(-C/S/M/Z12/Z58)

横河電機PLC FA-M3対応
ユニライン インターフェイス

Ver.1.1

本製品を安全に正しくご使用いただくためにこの取扱説明書をよく
お読みになり、内容を理解された上でご使用ください。
また、本書を大切に保管され保守、点検時にご活用ください。

ご注意

- 本書の内容に関しましては将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。
- 本書の内容に関しまして誤りや記載もれなどお気付きの点がございましたら、お手数ですが弊社までお知らせください。

はじめに

このたびは本システムをお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

正しくご使用いただくためにこの取扱説明書をよくお読みください。

また、あわせて弊社作成のテクニカルマニュアルもお読みください。

安全にまた正しくお使いいただくために



注意

- 本製品は必ず仕様範囲内でお使いください。仕様は[8ページ](#)に記載してあります。
- 配線作業を行うときは必ず電源を切ってください。
- 本システム機器と接続する電源はDC24V安定化電源をご使用ください。
- 伝送ライン(D、Gライン)や入出力ラインは高圧線や動力線と離してご使用ください。
- 伝送路1系統につき1本のキャブタイヤケーブルを割り当ててご使用ください。複数の系統を多芯ケーブルでまとめて送信するとクロストークにより機器が誤動作します。
- 誤配線はトラブルの原因となります。接続用端子の信号表示にあわせて接続してください。
- 伝送ラインの総延長は200m、500m、または1kmです。センサターミナルやパワーターミナルに接続されるセンサやランプ、コイルなどの消費電力が大きい場合電源ラインの電圧降下が大きくなり機器が誤動作することがあります。このような場合には分散配置されたターミナルで24Vとなるよう電源を分散配置してください。
- 本インターフェイスに接続できるターミナルは20ユニットまでです。
- 静電気や衝撃などに十分注意してお取り扱いください。
- コネクタピン端子部には触れないでください。触れると腐蝕の原因となり接触不良を起こします。
- 伝送データをコードとして扱われる場合には本システムの伝送方式上、次のような問題がありますのでご注意ください。よろしくお願いいたします。

出力の場合、出力ターミナル側では若い番号側から約35～140uSec毎に出力されてきますので出力ターミナルを介してデータの授受を行う場合、相手方が読み込むタイミングによっては正しいデータを読み込めない場合があります。この場合は、データより後の番号をストローブ信号としてデータの授受を行ってください。

入力の場合、本機側では1バイト単位でデータを更新していますが、二重照合をバイト単位ではなくビット毎に行っておりますので、厳密にはバイト単位のデータ保証はできません。

保証について

本製品の保証は日本国内で使用する場合に限りです。

- 保証期間

納入品の保証期間はご注文主のご指定場所に納入後1ヶ年とします。

- 保証範囲

上記保証期間中に本取扱説明書に従った製品使用範囲内の正常な使用状態で故障を生じた場合は、その機器の故障部分の交換または修理を無償で行います。

ただし、次に該当する場合はこの保証の範囲から除外させていただきます。

- (1) 需要者側の不適当な取扱い、ならびに使用による場合。
- (2) 故障の原因が納入者以外の事由による場合。
- (3) 納入者以外の改造または修理による場合。
- (4) その他、天災、災害等で納入者の責にあらざる場合。

ここでいう保証は納入品単体の保証を意味するもので、納入品の故障により誘発される損害はご容赦いただきます。

- 有償修理

保証期間後の調査および修理は全て有償となります。また保証期間中においても、上記保証範囲外の理由による故障の修理および故障の原因調査(保証範囲の場合を除く)は有償にてお受け致します。修理に関するご依頼はお買い上げの販売店にお申しつけください。

- 部品のご注文、お問い合わせ

製品の故障、部品のご注文、その他お問い合わせの節は、次の事項をお買い上げの販売店まで詳しくご連絡ください。

- (1) 型式
- (2) 製造ロット番号
- (3) 不具合の内容、配線図等

目 次

1 特 長	7
1. 1 従来品F3SV64(-C/S/M/Z12/Z58)との相違点	7
2 仕 様	8
2. 1 型式	8
2. 2 一般仕様	8
2. 3 性能仕様	8
3 設定	9
3. 1 伝送点数・距離設定	9
3. 2 動作モード設定	9
4 メモリマップ	10
5 伝送点数64点／128点設定の動作モードについて	10
5. 1. MODE「0」64点入力モード	11
5. 2. MODE「1」64点出力モード	11
5. 3. MODE「2」32点入力/32点出力モード	12
5. 4. MODE「3」128点入力モード	13
5. 5. MODE「4」128点出力モード	14
5. 6. MODE「5」64点入力/64点出力モード	15
5. 7. MODE「6」96点入力/32点出力モード	17
5. 8. MODE「7」32点入力/96点出力モード	17
6 伝送点数256点設定の動作モードについて	18
6. 1. MODE「0」256点入力モード	18
6. 2. MODE「1」256点出力モード	20
6. 3. MODE「2」128点入力/128点出力モード	21
6. 4. MODE「3」224点入力/32点出力モード	22
6. 5. MODE「4」192点入力/64点出力モード	23
6. 6. MODE「5」160点入力/96点出力モード	23
6. 7. MODE「6」96点入力/160点出力モード	25
6. 8. MODE「7」64点入力/192点出力モード	26
6. 9. MODE「8」32点入力/224点出力モード	27
7 エラーフラグについて	28
8 LED表示について	29

9 接続について.....	29
10 モニタ	30
11 伝送所要時間について.....	31
12 トラブルシューティング	32
13 外形寸法図.....	33
14 各部の名称.....	33
15 取扱説明書変更履歴	34

1 特 長

横河電機PLC FA-M3対応のユニラインインターフェイスです。

(F3SV64(-C/S/M/Z12/Z58)上位互換版)

1スロットで64点/128点または256点の入出力が選択できます。

64点モードの場合シリアル伝送のための特別なプログラムは不要です。

モードスイッチにより動作モードを選択できます。

伝送距離は総延長200m、500m、1kmが選択できます。

モニタユニット(別売り)により入出力のモニタが可能です。

1. 1 従来品 F3SV64(-C/S/M/Z12/Z58)との相違点

本機は従来品と比べ下記点に変更になっておりますのでご注意ください。

- ・ 動作モード(入出力割り付け)追加。
- ・ 側面ドア開口部に伝送点数・距離選択スイッチを追加。
- ・ 本機に供給される24V電圧が20V以下で伝送停止する機能追加。

※ SET LED、SETスイッチが追加されておりますが使用しません。

MODE	伝送点数64点/128点	伝送点数256点
0	入力64点	入力256点
1	出力64点	出力256点
2	入力32点/出力32点	入力128点/出力128点
3	入力128点	入力224点/出力32点
4	出力128点	入力192点/出力64点
5	入力64点/出力64点	入力160点/出力96点
6	入力96点/出力32点	入力96点/出力160点
7	入力32点/出力96点	入力64点/出力192点
8	予約	入力32点/出力224点
9~F	予約	

■部は追加の動作モード

MODEスイッチ
SET LED
SETスイッチ
POWER

RDY
IN
OUT
ERR

MODE

MON

D
G
24V
0V
24V
0V
FG

伝送点数・距離
設定スイッチ(SW2)

S: 500m
Z: 1km
256:256点
512:未使用

※SET LED
SETスイッチは
使用しません。

2 仕様

2.1 型式

仕様名	型式	仕様内容
基本仕様	F3SV64A	伝送点数64,128点/伝送距離200m
S仕様	F3SV64A-S	伝送点数64,128点/伝送距離500m
Z12仕様	F3SV64A-Z12	伝送点数64,128点/伝送距離1km
C仕様	F3SV64A-C	伝送点数256点/伝送距離200m
M仕様	F3SV64A-M	伝送点数256点/伝送距離500m
Z58仕様	F3SV64A-Z58	伝送点数256点/伝送距離1km

※伝送点数・距離はスイッチ設定により切り換えられます。

2.2 一般仕様

使用周囲温度	0°C~+50°C
保存温度	-20°C~+70°C
使用湿度	35%~85%RH(結露なきこと)
雰囲気	腐食性ガスや可燃性ガスなきこと

2.3 性能仕様

I/O点数	64点/128点または256点 ロータリースイッチにより動作モード(入出力割付)を選択						
ユニラインポート	1ポート(20アドレス Max.)						
接続ターミナル台数	20台						
伝送方式	双方向時分割多重伝送方式						
同期方式	ビット同期方式						
伝送手順	ユニライン・プロトコル						
伝送距離	総延長 200m、500m、1kmを選択						
リフレッシュサイクルタイム		モニタ接続無(mS Max.)			モニタ接続有(mS Max.)		
		64点	128点	256点	64点	128点	256点
	200m	3.0	5.2	11.0	4.0	5.8	12.0
	500m	5.8	10.9	21.0	6.0	11.5	22.0
伝送遅れ時間		モニタ接続無(mS Max.)			モニタ接続有(mS Max.)		
		64点	128点	256点	64点	128点	256点
	200m	6.0	10.4	22.0	8.0	11.6	24.0
	500m	11.6	21.8	42.0	12.0	23.0	44.0
質量		モニタ接続無(mS Max.)			モニタ接続有(mS Max.)		
		64点	128点	256点	64点	128点	256点
	200m	6.0	10.4	22.0	8.0	11.6	24.0
	500m	11.6	21.8	42.0	12.0	23.0	44.0
その他	伝送線D-G間、D-24V間の短絡検知、保護 伝送線の断線検知 上記異常状態をエラーフラグによりCPUに通知 本機に供給される24V電圧が20V以下で伝送停止						

3 設定

各設定は電源投入時にのみ読み込まれます。

その後切り換えても各設定は変わりませんのでご注意ください。

※SETスイッチは使用しません。ONしないでください。

3. 1 伝送点数・距離設定

本機側面のドアを開けると伝送点数・距離設定スイッチ(SW2)があります。

伝送点数設定

SW2の「256」スイッチにより伝送点数を設定します。

- ・ 「256」スイッチオフの場合、伝送点数64点/128点に設定されます。
- ・ 「256」スイッチオンの場合、伝送点数256点に設定されます。

※注)「512」スイッチは予備です。オンの場合、伝送点数256点に設定されます。

伝送距離設定

SW2の「S」、「Z」スイッチにより伝送距離を設定します。

- ・ 「S」及び「Z」スイッチがどちらもオフの場合、伝送距離200mに設定されます。
- ・ 「S」スイッチがオン、「Z」スイッチがオフの場合、伝送距離500mに設定されます。
- ・ 「S」スイッチがオフ、「Z」スイッチがオンの場合、伝送距離1kmに設定されます。
- ・ 「S」及び「Z」スイッチがどちらもオンの場合、伝送距離1kmに設定されます。

伝送点数及び伝送距離により、それぞれ使用できるターミナルの型式が異なります。

点数	距離	ターミナル型式に付加される記号	例(入力ターミナルの場合)
64点 /128点	200m	なし	STV-16T
	500m	-S	STV-16T-S
	1km	-Z12	STV-16T-Z12
256点	200m	-C	STV-16T-C
	500m	-M	STV-16T-M
	1km	-Z58	STV-16T-Z58

3. 2 動作モード設定

本機前面のMODEスイッチ(ロータリースイッチ)により動作モードを設定します。

詳細は、伝送点数64点/128点設定の場合、“[5. 伝送点数64点/128点設定の動作モードについて](#)”をご参照ください。伝送点数256点設定の場合は“[6. 伝送点数256点設定の動作モードについて](#)”をご参照ください。

注意

- 設定スイッチを操作する場合は、必ずPLCの電源を切ってから行ってください。
- 伝送点数・距離の設定は、ご使用になる伝送点数・距離に合わせて必ず行ってください。接続されているターミナルの伝送点数・伝送距離仕様と一致していないと正常に伝送できないことや、誤動作の原因となります。

4 メモリマップ

本機のメモリマップは下表となります。動作モードにより使用する領域が異なります。予備領域はアクセスしないでください。

伝送点数64点/128点設定の場合

接点位置 n	bit No. (1ワード)															
	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
1～8	入力0～127															
9	エラーフラグ															
10～16	予備															
17～24	出力0～127															
25～	予備															

伝送点数256点設定の場合

接点位置 n	bit No. (1ワード)															
	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
1～16	入力0～255															
17	エラーフラグ															
18～40	予備															
41～56	出力0～255															
57～	予備															

5 伝送点数64点/128点設定の動作モードについて

動作モードは下表となります。

MODEスイッチの値	動作モード
0	64点入力
1	64点出力
2	32点入力/32点出力
3	128点入力
4	128点出力
5	64点入力/64点出力
6	96点入力/32点出力
7	32点入力/96点出力
8～F	予 約(但し現在は64点入力となっています)

以下説明中の命令語の詳細につきましては横河電機株式会社のFA-M3取扱説明書をご参照ください。

注意

複数のプログラムから同一のデバイスへの書き込み(出力)はしないでください。
出力のチャタリングなどの不具合が起こります。

5. 1. MODE「0」64点入力モード

伝送点数64点の入力64点入力モードです。プログラム上は64点の接点入力モジュールと同様に扱えます。

(1) ラダープログラムの場合

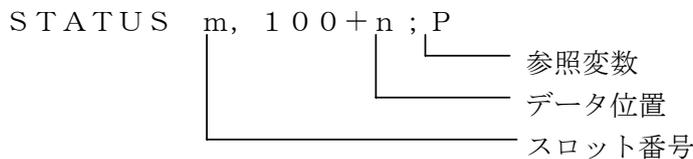
入力リレーとしてアクセスできます。

例えば本機をスロット3に取付けた場合、リレー番号とユニラインのアドレス番号との対応は下表となります。

リレー番号	ユニラインのアドレス番号
X00301~X00364	0~63

(2) BASICプログラムの場合

STATUS文でアクセスできます。



m, n : 数値または数値変数(n=1~4)

P : 数値変数

16bit単位でPに読み込まれます。

ユニラインのアドレス番号とワードデータの対応は次のようになります。

ワード番号 n	bit No.(1ワード)															
	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
3	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32
4	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48

5. 2. MODE「1」64点出力モード

64点全点出力モードです。プログラム上は64点の接点出力モジュールと同様に扱えます。

(1) ラダープログラムの場合

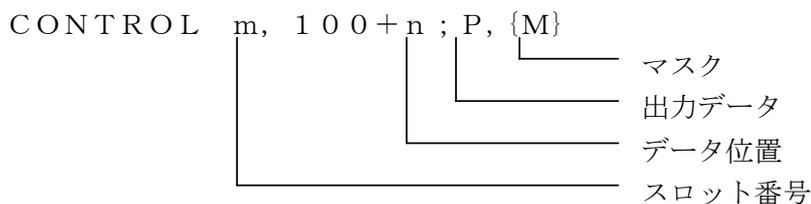
出力リレーとしてアクセスできます。

例えば本機をスロット3に取付けた場合、リレー番号とユニラインのアドレス番号との対応は下表となります。

リレー番号	ユニラインのアドレス番号
Y00301~Y00364	0~63

(2) BASICプログラムの場合

CONTROL文でアクセスできます。



m, n : 数値または数値変数(n=1~4)

P : 数値変数

M : マスク 省略した場合はM = \$FFFFとみなされます。

ユニラインのアドレス番号とワードデータの対応は次のようになります。

ワード番号 n	bit No.(1ワード)															
	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
3	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32
4	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48

5. 3 MODE「2」32点入力/32点出力モード

前半32点(0~31)が入力、後半32点(32~63)が出力となるモードです。

(1) ラダープログラムの場合

例えば本機をスロット3に取付けた場合、リレー番号とユニラインのアドレス番号との対応は下表となります。

	リレー番号	ユニラインのアドレス番号
入力	X00301~X00332	0~31
出力	Y00333~Y00364	32~63

(2) BASICプログラムの場合

入力の場合

STATUS m, 100+n; P

参照変数
データ位置
スロット番号

m, n : 数値または数値変数 (n=1~2)

P : 数値変数

16bit単位でPに読み込まれます。

出力の場合

CONTROL m, 100+n; P, {M}

マスク
出力データ
データ位置
スロット番号

m, n : 数値または数値変数 (n=1~2)

P : 数値変数

M : マスク 省略した場合はM = \$FFFFとみなされます。

ユニラインのアドレス番号とワードデータの対応は次のようになります。

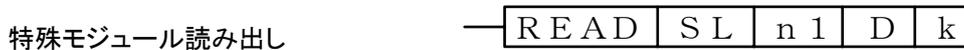
	ワード番号 n	bit No.(1ワード)															
		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
入力	1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
出力	1	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32
	2	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48

5. 4 MODE「3」128点入力モード

128点全点入力モードです。

(1) ラダープログラムの場合

ラダープログラムでは入力リレーとしてのアクセスはできません。
 特殊モジュール読み出し用のREAD命令によりアクセスします。
 ワード(16ビット)単位の扱いとなります。



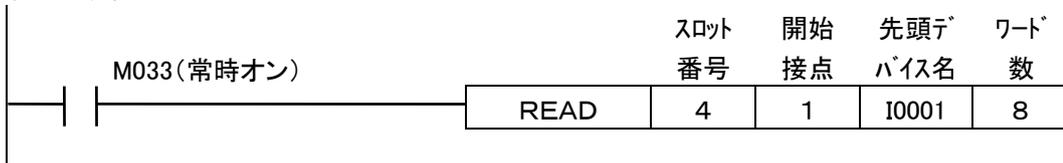
- SL: 本機が実装されているスロットの番号
- n1: 開始接点(接点位置 n1=1~8)
- D: 読み出した本機の指定接点の値を代入する先頭デバイス名
- k: 転送ワード数(16ビット単位での転送データ数)

ユニラインのアドレス番号とワードデータの対応は次のようになります。

接点位置 n1	bit No.(1ワード)															
	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
⋮							⋮									
7	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96
8	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112

次のようにすることにより内部リレーに置き換え、ラダープログラムでは対応する内部リレーを扱うことにより通常のラダープログラムと同じようにプログラムできます。

例えば本機をスロット4に取付けた場合、次のプログラムにより内部リレーとの対応は下表となります。プログラムでは内部リレーI0001~I0128を入力として扱えば対応するユニラインのI/Oの入力が行えます。



	内部リレー	ユニラインのアドレス番号
入力	I0001~I0128	0~127

(2) BASICプログラムの場合

BASICプログラムではENTER文によりアクセスします。

ENTER m, n NOFORMAT ; I

m, n : 数値または数値変数 (n=1~8)
 I : 整数型変数または整数型配列変数
 データ位置で指定された入力データの内容をIに入力します。

ENTER m NOFORMAT ; I (*)

m : 数値または数値変数
 I(*) : 整数型変数一括指定
 全入力データの内容をI(*)に入力します。但し配列の大きさまで。

ユニラインのアドレス番号とワードデータの対応は次のようになります。

接点位置 n	bit No.(1ワード)															
	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
⋮							⋮									
7	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96
8	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112

5. 5 MODE「4」128点出力モード

128点全点出力モードです。

(1) ラダープログラムの場合

ラダープログラムでは出力リレーとしてのアクセスはできません。
 特殊モジュール書き込み用のWRITE命令によりアクセスします。
 ワード(16ビット)単位の扱いとなります。

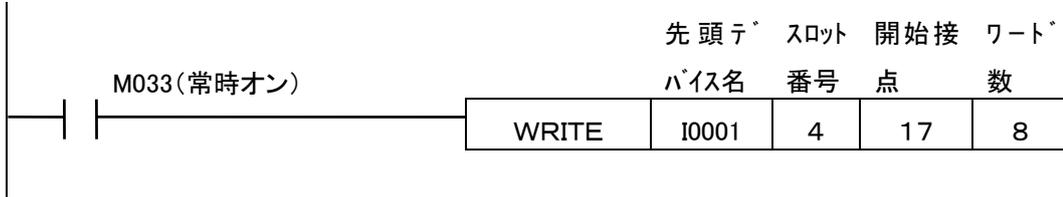
特殊モジュール書き込み WRITE S SL n2 k

S : 本機の指定接点に値を書き込む先頭デバイス名(ソースデバイス)
 SL : 本機が実装されているスロットの番号
 n2 : 開始接点(接点位置 n2=17~24)
 k : 転送ワード数(16ビット単位での転送データ数)

ユニラインのアドレス番号とワードデータの対応は次のようになります。

接点位置 n2	bit No.(1ワード)															
	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
17	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
18	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
⋮							⋮									
23	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96
24	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112

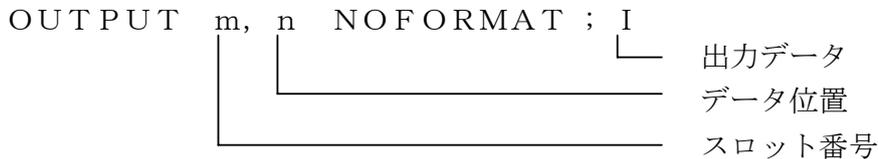
次のようにすることにより内部リレーに置き換え、ラダープログラムでは対応する内部リレーを扱うことにより通常のラダープログラムと同じようにプログラムできます。
 例えば本機をスロット4に取付けた場合、次のプログラムにより内部リレーとの対応は下表となりプログラムでは内部リレーI0001～I0128に出力すれば対応するユニラインのI/Oの出力が行えます。



	内部リレー	ユニラインのアドレス番号
出力	I0001～I0128	0～127

(2) BASICプログラムの場合

BASICプログラムではOUTPUT文によりアクセスします。



m, n : 数値または数値変数 (n=1～8)

I : 整数型変数または整数型配列変数

データ位置で指定された出力データレジスタにIの内容を出力します。

または



m : 数値または数値変数

I(*) : 整数型変数一括指定

全出力データレジスタにI(*)の内容を出力します。但し配列の大きさまで。

ユニラインのアドレス番号とワードデータの対応は次のようになります。

接点位置 n	bit No.(1ワード)															
	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
⋮							⋮									
7	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96
8	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112

5. 6 MODE「5」64点入力/64点出力モード

前半64点(0～63)が入力、後半64点(64～127)が出力となるモードです。

プログラム上の扱いは“[5.4](#)、[5.5](#)”と同様です。

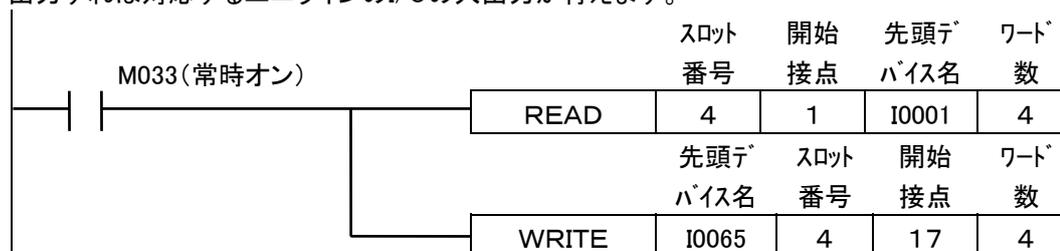
(1) ラダープログラムの場合

ユニラインのアドレス番号とワードデータの対応は次のようになります。

	接点位置 n1 or n2	bit No.(1ワード)															
		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
入 力 n1	1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	3	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32
	4	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48
出 力 n2	17	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64
	18	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80
	19	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96
	20	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112

次のようにすることにより内部リレーに置き換え、ラダープログラムでは対応する内部リレーを扱うことにより通常のラダープログラムと同じようにプログラムできます。

例えばスロット4に本機を取付けた場合、次のプログラムにより内部リレーとの対応は下表となり、プログラムでは入力の場合内部リレーI0001~I0064を入力として扱い、出力の場合I0065~I0128に出力すれば対応するユニラインのI/Oの入出力が行えます。



	内部リレー	ユニラインのアドレス番号
入力	I0001~I0064	0~63
出力	I0065~I0128	64~127

(2) BASICプログラムの場合

ユニラインのアドレス番号とワードデータの対応は次のようになります。

	接点位置 n	bit No.(1ワード)															
		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
入 力	1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	3	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32
	4	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48
出 力	1	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64
	2	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80
	3	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96
	4	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112

5. 7 MODE「6」96点入力/32点出力モード

前半96点(0~95)が入力、後半32点(96~127)が出力となるモードです。
プログラム上の扱いは“[5. 4](#)、[5. 5](#)”と同様です。

ユニラインのアドレス番号とワードデータの対応は次のようになります。

(1) ラダープログラムの場合

	接点位置 n1 or n2	bit No.(1ワード)															
		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
入 力 n1	1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	⋮								⋮								
	5	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64
	6	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80
出 力 n2	17	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96
	18	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112

(2) BASICプログラムの場合

	接点位置 n	bit No.(1ワード)															
		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
入 力	1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	⋮								⋮								
	4	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48
	6	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80
出 力	1	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96
	2	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112

5. 8 MODE「7」32点入力/96点出力モード

前半32点(0~31)が入力、後半96点(32~127)が出力となるモードです。
プログラム上の扱いは“[5. 4](#)、[5. 5](#)”と同様です。

ユニラインのアドレス番号とワードデータの対応は次のようになります。

(1) ラダープログラムの場合

	接点位置 n1 or n2	bit No.(1ワード)															
		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
入 力 n1	1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
出 力 n2	17	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32
	18	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48
	⋮								⋮								
	21	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96
	22	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112

(2) BASICプログラムの場合

	接点位置 n	bit No.(1ワード)															
		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
入 力	1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
出 力	1	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32
	2	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48
	:							:									
	4	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80
	5	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96
	6	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112

6 伝送点数 256点設定の動作モードについて

動作モードは下表となります。

MODEスイッチの値	動作モード
0	256点入力
1	256点出力
2	128点入力／128点出力
3	224点入力／32点出力
4	192点入力／64点出力
5	160点入力／96点出力
6	96点入力／160点出力
7	64点入力／192点出力
8	32点入力／224点出力
9～F	予 約(使用しないでください)

以下説明中の命令語の詳細につきましては横河電機株式会社のFA-M3取扱説明書をご参照ください。

 注意

複数のプログラムから同一のデバイスへの書き込み(出力)はしないでください。
出力のチャタリングなどの不具合が起こります。

6. 1 MODE「0」256点入力モード

256点全点入力モードです。

(1) ラダープログラムの場合

ラダープログラムでは入力リレーとしてのアクセスはできません。
特殊モジュール読み出し用のREAD命令によりアクセスします。
ワード(16ビット)単位の扱いとなります。

特殊モジュール読み出し



SL: 本機が実装されているスロットの番号

n1: 開始接点(接点位置 n1=1~16)

D : 読み出した本機の指定接点の値を代入する先頭デバイス名

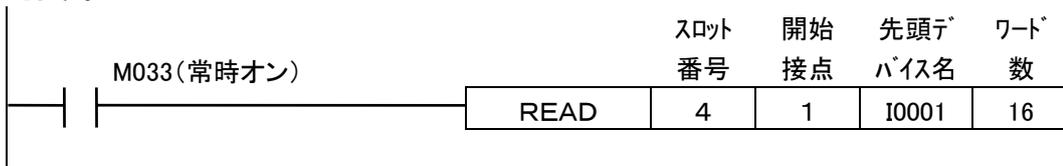
k : 転送ワード数(16ビット単位での転送データ数)

ユニラインのアドレス番号とワードデータの対応は次のようになります。

接点位置 n1	bit No. (1ワード)															
	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
⋮							⋮									
15	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224
16	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	240

次のようにすることにより内部リレーに置き換え、ラダープログラムでは対応する内部リレーを扱うことにより通常のラダープログラムと同じようにプログラムできます。

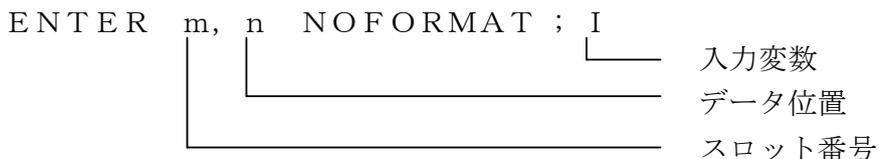
例えばスロット4に本機を取付けた場合、次のプログラムにより内部リレーとの対応は下表となり、プログラムでは内部リレーI0001~I0256を入力として扱えば対応するユニラインのI/Oの入力が行えます。



	内部リレー	ユニラインのアドレス番号
入力	I0001~I0256	0~255

(2) BASICプログラムの場合

BASICプログラムではENTER文によりアクセスします。



m, n : 数値または数値変数 (n=1~16)

I : 整数型変数または整数型配列変数

データ位置で指定された入力データの内容をIに入力します。



m、 : 数値または数値変数

I(*) : 整数型変数一括指定

全入力データの内容をI(*)に入力します。但し配列の大きさまで。

ユニラインのアドレス番号とワードデータの対応は次のようになります。

接点位置 n	bit No. (1ワード)															
	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
⋮							⋮									
15	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224
16	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	240

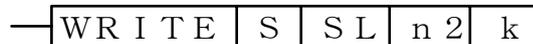
6. 2 MODE「1」256点出力モード

256点全点出力モードです。

(1) ラダープログラムの場合

ラダープログラムでは出力リレーとしてのアクセスはできません。
 特殊モジュール書き込み用のWRITE命令によりアクセスします。
 ワード単位の扱いとなります。

特殊モジュール書き込み



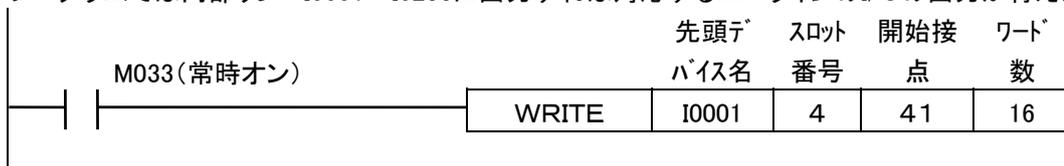
- S : 本機の指定接点に値を書き込む先頭デバイス名(ソースデバイス)
- SL: 本機が実装されているスロットの番号
- n2: 開始接点(接点位置 n2=41~56)
- k : 転送ワード数(16ビット単位での転送データ数)

ユニラインのアドレス番号とワードデータの対応は次のようになります。

接点位置 n2	bit No. (1ワード)															
	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
41	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
42	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
⋮							⋮									
55	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224
56	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	240

次のようにすることにより内部リレーに置き換え、ラダープログラムでは対応する内部リレーを扱うことにより通常のラダープログラムと同じようにプログラムできます。

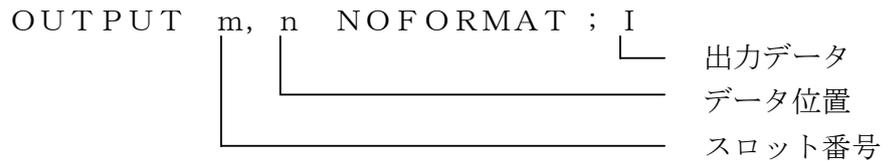
例えばスロット4に本機を取付けた場合、次のプログラムにより内部リレーとの対応は下表となり、プログラムでは内部リレーI0001~I0256に出力すれば対応するユニラインのI/Oの出力が行えます。



	内部リレー	ユニラインのアドレス番号
出力	I0001~I0256	0~255

(2) BASICプログラムの場合

BASICプログラムではOUTPUT文によりアクセスします。



m, n : 数値または数値変数 (n=1~16)
 I : 整数型変数または整数型配列変数
 データ位置で指定された出力データレジスタにIの内容を出力します。



m、 : 数値または数値変数
 I(*) : 整数型変数一括指定
 全出力データレジスタにI(*)の内容を出力します。但し配列の大きさまで。

ユニラインのアドレス番号とワードデータの対応は次のようになります。

接点位置 n	bit No. (1ワード)															
	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
⋮							⋮									
15	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224
16	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	240

6. 3 MODE「2」128点入力/128点出力モード

前半128点(0~127)が入力、後半128点(128~255)が出力となるモードです。
 プログラム上の扱いは“[6. 1](#)、[6. 2](#)”と同様です。

ユニラインのアドレス番号とワードデータの対応は次のようになります。

(1) ラダープログラムの場合

	接点位置 n1 or n2	bit No. (1ワード)															
		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
入 力	1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	⋮							⋮									
	7	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96
n1	8	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112
出 力	41	143	142	141	140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	130	129	128
	42	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	148	147	146	145	144
	⋮							⋮									
	47	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224
n2	48	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	240

(2) BASICプログラムの場合

	接点位置 n	bit No. (1ワード)															
		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
入力	1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	⋮								⋮								
	7	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96
	8	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112
出力	1	143	142	141	140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	130	129	128
	2	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	148	147	146	145	144
	⋮								⋮								
	7	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224
	8	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	240

6. 4 MODE「3」224点入力/32点出力モード

前半224点(0~223)が入力、後半32点(224~255)が出力となるモードです。
プログラム上の扱いは“6. 1、6. 2”と同様です。

ユニラインのアドレス番号とワードデータの対応は次のようになります。

(1) ラダープログラムの場合

	接点位置 n1 or n2	bit No. (1ワード)															
		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
入力	1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	⋮								⋮								
	13	207	206	205	204	203	202	201	200	199	198	197	196	195	194	193	192
	n1	14	223	222	221	220	219	218	217	216	215	214	213	212	211	210	209
出力	41	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224
	n2	42	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241

(2) BASICプログラムの場合

	接点位置 n	bit No. (1ワード)															
		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
入力	1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	⋮								⋮								
	13	207	206	205	204	203	202	201	200	199	198	197	196	195	194	193	192
	14	223	222	221	220	219	218	217	216	215	214	213	212	211	210	209	208
出力	1	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224
	2	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	240

6. 5 MODE「4」192点入力/64点出力モード

前半192点(0~191)が入力、後半64点(192~255)が出力となるモードです。
プログラム上の扱いは“[6. 1](#)、[6. 2](#)”と同様です。

ユニラインのアドレス番号とワードデータの対応は次のようになります。

(1) ラダープログラムの場合

	接点位置 n1 or n2	bit No. (1ワード)															
		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
入 力	1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	⋮							⋮									
	11	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	160
n1	12	191	190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	180	179	178	177	176
出 力	41	207	206	205	204	203	202	201	200	199	198	197	196	195	194	193	192
	42	223	222	221	220	219	218	217	216	215	214	213	212	211	210	209	208
	43	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224
	n2	44	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241

(2) BASICプログラムの場合

	接点位置 n	bit No. (1ワード)															
		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
入 力	1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	⋮							⋮									
	11	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	160
	12	191	190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	180	179	178	177	176
出 力	1	207	206	205	204	203	202	201	200	199	198	197	196	195	194	193	192
	2	223	222	221	220	219	218	217	216	215	214	213	212	211	210	209	208
	3	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224
	4	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	240

6. 6 MODE「5」160点入力/96点出力モード

前半160点(0~159)が入力、後半96点(160~255)が出力となるモードです。
プログラム上の扱いは“[6. 1](#)、[6. 2](#)”と同様です。

ユニラインのアドレス番号とワードデータの対応は次のようになります。

(1) ラダープログラムの場合

	接点位置 n1 or n2	bit No. (1ワード)															
		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
入 カ 力	1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	⋮							⋮									
	9	143	142	141	140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	130	129	128
	n1	10	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	148	147	146	145
出 カ 力	41	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	160
	42	191	190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	180	179	178	177	176
	⋮							⋮									
	45	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224
	n2	46	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241

(2) BASICプログラムの場合

	接点位置 n	bit No. (1ワード)															
		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
入 カ 力	1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	⋮							⋮									
	9	143	142	141	140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	130	129	128
	10	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	148	147	146	145	144
出 カ 力	1	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	160
	2	191	190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	180	179	178	177	176
	⋮							⋮									
	5	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224
	6	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	240

6. 7 MODE「6」96点入力/160点出力モード

前半96点(0~95)が入力、後半160点(96~255)が出力となるモードです。

プログラム上の扱いは“[6. 1](#)、[6. 2](#)”と同様です。

ユニラインのアドレス番号とワードデータの対応は次のようになります。

(1) ラダープログラムの場合

	接点位置 n1 or n2	bit No. (1ワード)																
		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
入 力	1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	
	2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	
	⋮								⋮									
	5	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	
	n1	6	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80
	出 力	41	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96
42		127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112	
⋮									⋮									
49		239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224	
n2		50	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	240

(2) BASICプログラムの場合

入力エリア

ユニラインのアドレス番号とワードデータの対応は次のようになります。

	接点位置 n	bit No. (1ワード)															
		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
入 力	1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	⋮								⋮								
	5	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64
	6	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80
	出 力	1	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97
2		127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112
⋮									⋮								
9		239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224
10		255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	240

6. 8 MODE「7」64点入力/192点出力モード

前半64点(0~63)が入力、後半192点(64~255)が出力となるモードです。
プログラム上の扱いは“[6.1](#)、[6.2](#)”と同様です。

ユニラインのアドレス番号とワードデータの対応は次のようになります。

(1) ラダープログラムの場合

	接点位置 n1 or n2	bit No. (1ワード)															
		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
入 力 n1	1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	3	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32
	4	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48
出 力 n2	41	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64
	42	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80
	⋮							⋮									
	51	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224
	52	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	240

(2) BASICプログラムの場合

	接点位置 n	bit No. (1ワード)															
		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
入 力	1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
	3	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32
	4	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48
出 力	1	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64
	2	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80
	⋮							⋮									
	11	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224
	12	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	240

6. 9 MODE「8」32点入力/224点出力モード

前半32点(0~31)が入力、後半224点(32~255)が出力となるモードです。

プログラム上の扱いは“[6. 1](#)、[6. 2](#)”と同様です。

ユニラインのアドレス番号とワードデータの対応は次のようになります。

(1) ラダープログラムの場合

	接点位置 n1 or n2	bit No. (1ワード)															
		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
入力 n1	1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
出力 n2	41	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32
	42	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48
	⋮							⋮									
	53	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224
	54	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	240

(2) BASICプログラムの場合

	接点位置 n	bit No. (1ワード)															
		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
入力	1	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
	2	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16
出力	1	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32
	2	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48
	⋮								⋮								
	13	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224
	14	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	240

7 エラーフラグについて

エラーフラグにより伝送ラインの状態を知ることができます。

伝送点数64点/128点設定の場合、接点位置を9とすることによりエラーフラグを読み込むことができます。

伝送点数256点設定の場合は、接点位置17とすることによりエラーフラグを読み込むことができます。

この状態はERR. LEDによっても表示されます。

伝送点数 設定	接点位置 n	bit No. (1ワード)															
		15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
64点/128点	9	エラーフラグ															
256点	17																

エラーが発生した場合エラーフラグの対応するビットが”1”になります。

エラー状態が解除されると”0”になります。保持はしません。

Bit 0	D-G間の短絡
Bit 1	エンドユニットED-120(-S/Z12)が接続されていない。 またはD-Gラインの断線。
Bit 2	D-24V間の短絡または本機の24Vが供給されていない。
Bit 3~15	予 備

(1) ラダープログラムの場合

特殊モジュール読み出し



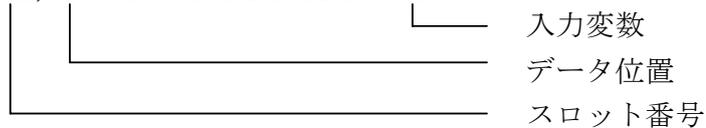
SL: 本機が実装されているスロットの番号

D : 本機のエラーフラグの値を代入する先頭デバイス名

(2) BASICプログラムの場合

BASICプログラムではENTER文によりアクセスします。

```
ENTER m, 17 NOFORMAT ; I
```



m : 数値または数値変数

I : 整数型変数または整数型配列変数

エラーステータスの値をIに代入します。

8 LED表示について

RDY(緑) — 通常、点灯しています。

IN(緑) — 入力モードに設定されている場合に点滅します。

OUT(黄) — 出力モードに設定されている場合に点滅します。

※入出力モードの場合はIN・OUT両方点滅します。

ERR.(赤) — 本システムの伝送ラインに異常がある場合点灯します。

点灯状態	主な原因	エラーフラグ
遅い点滅	D-G間短絡。	ビット0
点灯	エンドユニットED-120(-S/Z12)が接続されていない。 またはD-Gラインの断線。	ビット1
速い点滅	D-24V間短絡。または本機に24Vが供給されていない。	ビット2

(速い点滅とはINまたはOUTの点滅と同じ周期の点滅を言います。)

POWER(緑) — DC24Vが供給されると点灯します。

SET(橙) — 未使用。常時消灯しています。

9 接続について

ユニラインポートは脱着の容易なコネクタ端子になっています。

D	伝送線です。ターミナルのDと接続します。
G	伝送線です。ターミナルのGと接続します。
24V	DC24Vの安定化電源を接続してください。
0V	負荷とターミナルに必要な電流+0.2A以上の容量のもの
24V	内部で24Vと接続されています。
0V	内部で0Vと接続されています。
FG	フレームグラウンド

24V、0V、D、Gはそれぞれアドレスユニットまたはターミナルユニットの24V、0V、D、Gと接続してください。(各ユニットの取扱説明書を参照ください。)

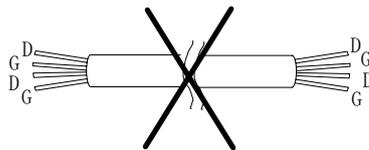
伝送線の終端にエンドユニットED-120(-C/S/M/Z12/Z58)を接続してください。

ED-120(-C/S/M/Z12/Z58)を接続しないとERR. LEDが点灯します。但しデータの伝送は可能です。ターミナルの接続台数は最大20台です。

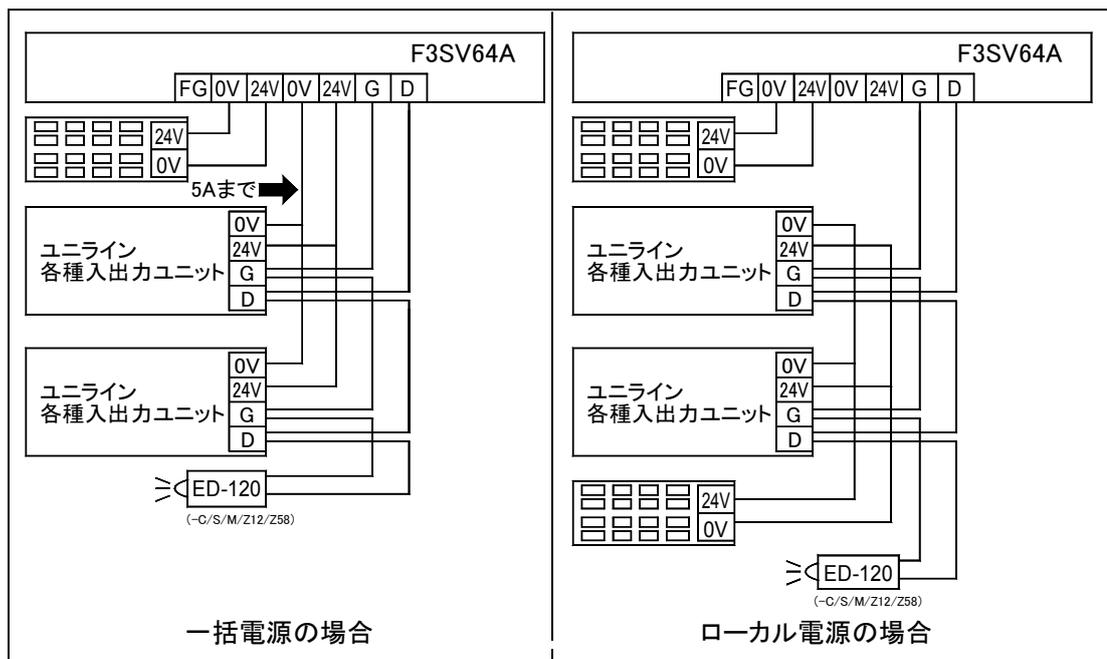
⚠ 注意

- 多芯ケーブルで複数の伝送線(D、G)をまとめて送らないでください。まとめて送るとクロストークにより機器が誤動作します。

1ポートに1本の伝送線としてください。



- 伝送線の太さは200mまでは0.5mm²以上、それ以上の場合は1.25mm²以上としてください。
- ケーブルによる電圧降下にご注意ください。電圧降下により機器が誤動作します。電圧降下が大きい場合はターミナル側で電源を供給してください。(ローカル電源)
- コネクタ端子に接続する線は半田あげしないでください。線がゆるみ接触不良の原因となります。
- 本機に供給される24V電圧が20V以下になると伝送を停止します。



一括電源の場合ボード内を通じて供給することになるため、ターミナルに供給する24V電源はセンサや電磁弁など負荷用を含め**5A**までとしてください。

10 モニタ

別売りのモニタユニットRM-120を接続することによってオン・オフ状態のモニタと強制オン・オフができます。

これによりCPUを介さずに配線チェックができます。またプログラムのデバッグも効率よく行うことが可能です。

出力を強制オン・オフする場合はCPUの運転モードを停止にしてください。

12 トラブルシューティング

まず次のことを確認してください。

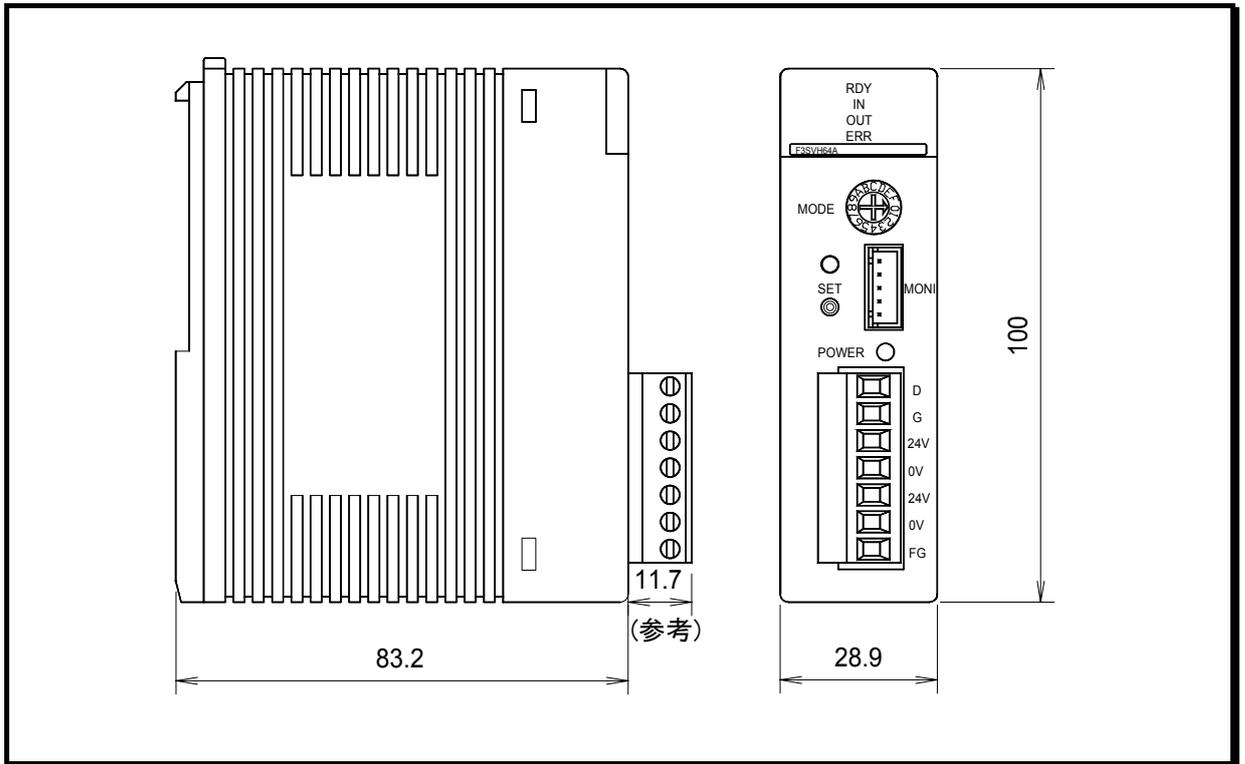
- (1) すべての機器のPOWERランプが点灯していること。
- (2) すべての機器のSENDランプが点滅していること。
- (3) 各機器の電源電圧が21.6～27.6Vの範囲にあること。
- (4) 配線、接続が確実であること。
- (5) アドレス設定が正確であること、重複していないこと。

あわせて弊社作成のテクニカルマニュアルをご覧ください。

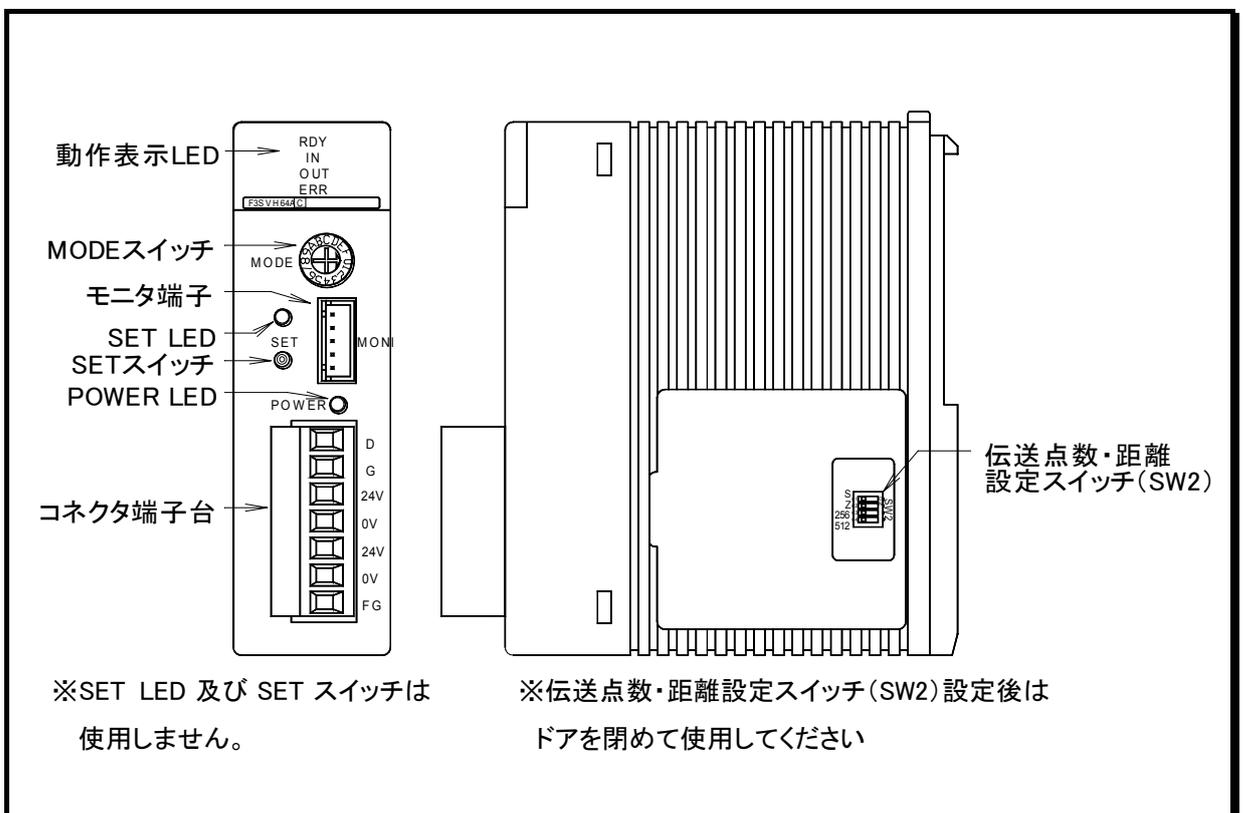
症状別チェックリスト

症状	チェック項目
データの入出力ができない	本機側 伝送点数・距離設定(SW2)が正しいか 伝送点数・距離の仕様がターミナルの仕様と合っているか MODEスイッチが正しく設定されているか MODEスイッチで設定したI/O構成とソフトウェアで指定しているI/O番号が一致しているか ユニットの実装位置とソフトウェアで指定するスロット番号が一致しているか <hr/> ターミナル側 ターミナルに電源が供給されているか ターミナルのアドレスは正しく設定されているか 入力ターミナルと出力ターミナルが同じアドレスに設定されていないか
ERR.LED(赤)が点灯	D、Gラインが断線していないか ED-120(-C/S/M/Z12/Z58)が接続されているか 端子台のビスがゆるんでいないか
ERR.LED(赤)がゆっくり点滅	D、Gラインが短絡していないか
ERR.LED(赤)が速く点滅	本機に供給しているDC24V電源の電圧が正常か Dと24Vが接触していないか

1 3 外形寸法図



1 4 各部の名称



1 5 取扱説明書変更履歴

バージョン	日付	変更内容
V1.0 (EF3SV64A-800A)	2013.06.04	リリース
V1.1 (EF3SV64A-800B)	2013.07.05	F3SV64A-C/M/Z58と共通化により伝送点数・距離に関わる項目を修正。

NKE株式会社

[旧社名(株)中村機器エンジニアリング]

商品に関するご質問は、フリーダイヤル、もしくはEメールにてお問い合わせください。
(AM.9:00~PM.5:00 土日、祝祭日休み)

 **0120-77-2018**

 **promotion@nke.co.jp**

● NKE 伏見工場 〒612-8487 京都市伏見区羽東師菱川町 366-1 TEL 075-931-2731(代) FAX 075-934-8746

● NKE ホームページ : <http://www.nke.co.jp/>

● お断りなくこの資料の記載内容を変更することがありますのでご了承ください。

©2013 NKE Corporation